

2024年度(2024.4.1～2025.3.31) 活動報告書

主催団体	青少年多文化学びサポート(ESMY)
会場	①並木公民館②新所沢公民館③柳瀬公民館④小手指公民館分館⑤東所沢和田三丁目自治会集会所 ⑥こどもと福祉の未来館⑦中富南個別⑧オンライン/個別支援(三ヶ島公民館ほか)⑨市内小中学校・所沢高校 ⑩高校生教室(中央公民館)
日時	①月13:30～17:00 ②火16:30～19:00 ③水16:30～18:00④木 17:30～19:00⑤金17:30～19:00⑥土10:00～12:00 ⑦⑧学習者との協議により異なる⑨小中学校:学校との協議により異なる・所沢高校(月16:00～17:00) ②③集中教室:春休み(2024年4月・2025年3月)・夏休み(7・8月)・冬休み(12・1月) ⑩木15:00～16:30
代表者	持丸邦子
会費	年間1,000円 後期入会500円(学生は無料)
年間開催回数	①4/ 対面教室 87回 オンライン・個別 93回 学校 72回 春休み10回 夏休み79回(期間中個別を含む)高校生14回 ②9/ 対面教室 108回 オンライン・個別 182回 学校 119回 冬休み19回 高校生16回 ③1/ 対面教室 70回 オンライン・個別 68回 学校 64回 冬休み 4回 春休み 4回 高校生9回
スタッフ	会員登録者 62名 *各教室の年間支援者数は別表参照 (2025.3.31現在) 〔一回平均〕 名 〔年間延べ人数〕 名 〔新入会スタッフ〕 17 名(うち学生会員7名) 〔退会スタッフ〕16名(うち学生会員10・逝去1・名簿整理4・体調1)
受講生数	〔一回平均〕 名 〔年間延べ人数〕 名
受講生出身国	〔年間〕 カ国 〔一回平均〕 カ国 〔詳細(上位から順に)〕 パキスタン 30名 中国 20名 ネパール 19名 バングラデシュ 7名 ベトナム 7名 フィリピン 6名 パラグアイ 3名 ガーナ 2名 スリランカ 2名 ミャンマー 3名 インド 2名 オーストラリア 1名 エチオピア1名 イラン 1名 ブラジル 1名 アルゼンチン 1名 (106名)
内容	●学習支援範囲:日本語基礎～教科支援まで。 ●支援手段:教室での対面支援が主。1対1が主。柳瀬・東所沢では1対2、3名のときも。オンライン・個別支援も。 ●学校での支援:教育センターが子ども一人当たりの通算支援回数を5回増やしたための追加支援を行った。 ESMYの派遣先は小学校4校、中学校各3校、高校が1校だった。学習困難な子どもに対して、ESMYチームで、週複数回の支援を行った。 ●研修:内部研修 I 基礎研修(資料配布・Youtube動画視聴) II 高校進学支援研修(同左) 外部研修:社会教育課入門講座(参加者の入会があった)・実践講座(JICA地球ひろば見学と重なったため不参加)・埼玉日本語ネットワーク・全国規模のオンライン講座紹介 ●学習会 在留資格についての学習会「家族滞在から自立への在留資格」(支援者・学習者・保護者にも呼びかけての公開学習会)学習者のキャリア支援でもある⇒学習者の参加6名 ●進路支援:高校進学ガイダンス協力/高校説明会・進学フェア・高校文化祭同行/大学・専門学校(ICU・駿河台大学・トヨタ東京自動車大学校)オープンキャンパス・学園祭(早稲田大学所沢キャンパス・東京理科大)同行/JICA地球ひろば見学(支援者・学習者)/クリケット公開練習会主催(中高生がクリケット競技の紹介) ●地域との交流 所沢こどもルネサンス「トコトタウン」ボランティア参加・「あかさたな音楽祭」にてネパールダンス披露/市民活動フェア参加/国際交流フォーラム参加(ネパールダンス・トークルーム)
今年度のまとめ	2024年度の特徴 1. 学習者:ネパール出身者が急増した。算数・数学の基礎力がついていない子が多い。/高校受験者数が受験時には年度当初の2倍になった。年度後半に来日する受験年齢者がいるため。/実際に目で見ることの重要性が伝わるようになって、学校説明会やオープンキャンパスに参加する学習者が増えた。 2. 支援者:柳瀬・東所沢地区での支援者が大幅に不足している(市の東部地区は外国人住民が増えている)。/前年度3月に卒業した学生支援者の紹介で支援に入ってくれた高校生が2名。元学習者が支援者として参加(三人目)。 3. 学校の対応:所沢高校が地域との協働として、ESMYの日本語支援を位置づけてくれた。/小学校で2校、学校での支援を断られた。 4. 高校進学時に、金銭的な面でのご家庭の苦慮が明らかになった。 5. 兄弟が幼いために、移動が難しい保護者自身から平日の日本語学習支援の依頼が複数あった。
今後の課題	1 支援者不足への対応策が必要:特定の地区(東所沢)に限定した支援者募集の効果的な方策をとる必要がある。 2 基礎学力不足への対応策:JICAの海外教育支援経験者との連携 3 学校でのESMYの活動を学校に理解してもらうこと 4 学校での日本語支援のしくみの中で、効果的な支援になるために、ESMYは何をすればいいのかを知ること(県費の日本語指導者と情報共有をしたい)。 5 高校進学に当たって、家庭の経済的な負担やそれを援助するしくみについての情報が不足している。 6 若い家族の多い市東部、また、並木団地地区での平日の親子向けの日本語教室立ち上げの必要がある。ESMYの力は限界。
報告者	持丸邦子